



8 四季耕作図 原在照 対幅

絹本着色
江戸時代後期(十九世紀)
本紙各一二五・〇×五七・三

原在照(一八一三〜七二)は、三代目の原派当主。山科家雑掌小林家に生まれ、後に原派第二代在明の娘婿となった。原派の祖、在中の画法を守り、幅広い画題をこなしている。安政度内裏御造営に際しては諸大夫の間などを担当し、万延元年の和宮婚儀の際には屏風を制作、また慶応三年の明治天皇即位式の際には曲水宴の屏風を制作したことが知られ、禁裏の御用を多く手掛けていたことが窺える。『平安人物志』では、天保九年版から慶応三年版に記載され、幕末の京都画壇を支えた一人であった。

本図は、右幅に初夏の田植えの情景を、左幅に秋の収穫の情景を描く。耕作図は、もとは儒教思想に基づき、民衆の勤農をすすめると共に、国の繁栄のもとに農業にあり、君主の徳は民衆の労苦を知ることにあるとして、室町時代以降の大画面の画題に取り上げられるようになった。特に江戸時代の城郭の障壁や屏風、掛幅には四季耕作図が多く描かれた。在照は、安政度内裏御造営に際して皇后御常御殿中央の御寝ノ間に「倭ノ耕作図」を描いており、ゆったりとした時が流れるかのような平穏な情趣を、人々の様々な動きと四季折々の植物や風情を描き込み、美しい画面に仕立て上げている。本図はその同じ画題を、掛幅の小画面に描いた作品であるが、手前から遠望する構図の中に、実に巧みに叙情性豊かに丁寧な描き上げている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 — 円山派の伝統と発展

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections